



☆ 『この道を行けば・・・山頂の景色は今年も優しい風景です』 ☆

先日、毎年恒例5月の徒歩遠足『城山縦走コース』の事前下草刈りに行ってきました。秦歴史保存協議会4名(左から仮谷さん、小西さん、上野さん、藤岡さん)の方々と一緒に、子どもたちが歩く山道の、点検と整備をしました。倒木の撤去と漆の木の手入れを行いながら、どんどん進んで行かれます。私は追いついていくのに必死なだけで、大して役に立ってませんが、貴重なお話はたくさん聞けました。『この道は、すでに自分たちが子どものころには整備されていたこと、村のみんなでいろいろな道具を担いで上がり、山道の整備をずっと続けてきたこと、後継者が少なくなってきたこの山道も誰が・・・』



と、心配されていることも含めて、話されていました。『なるほど、普通にできた道ではなかったのかあ。秦地域の皆さんが代々守ってきた道を踏みしめているのか』と思うと登り道のしんどさも少しは和らぎました。お社や城跡・古墳が点在し、古代吉備の文化に触れられるすごい道なのです。それに、なんといっても、休憩所を兼ねた東屋が設置しており、秦から総社市を一望、その先には倉敷市と岡山市の街並みまで見渡せる

雄大な景色が迎えてくれます。ここは、お弁当でも広げて、ゆったりと悠久の歴史に思いを馳せることができる場所です。子どもたちは、毎年この景色を目にする予定ですが、小学校を卒業し、少し大きくなった時に、もいちど思い出す、すばらしいわがふるさとの景色です。後継者の心配をされていましたが、この雄大で優しい景色を見た子どもたちが必ず受け継いでくれるはず。そんなことを思いながら『今年も登ってきてよかったあ。』と、ひとり小声で叫ぶ校長でした。



これが漆(さわるとかぶれる木)